

論文の内容の要旨

論文題目：ガバナンスの観点から見た質の高い社会基盤デザインのメカニズムに関する事例分析
Case study on the mechanism of good infrastructure design from the perspective of governance

氏 名：太 田 啓 介

近年、少子高齢化や人口減少など、地域の活力の維持や持続可能性が問題になっている。そこでは地方創生や今後の地域間競争の生き残りをかけた質の高い社会基盤の整備・運営に期待されることも大きく、デザイン性を重視し、地域の活性化につなげる取り組みなどが行われている。中でも、質の高いデザインとして評価されている社会基盤の事例は、優れた造形だけでなく、地域のヴィジョンや新たな利活用などの価値の創造を実現している。

一方で、優れた設計者が選ばれても、その後のさまざまな状況により、事業が中止となったり、供用後に改築が必要となる例もみられ、公共施設として求められる質の高い社会基盤の実現のためには、設計段階以降のプロセスも重要であると考えられる。近年質の高い事例では、そのプロセスに従来の行政と設計者だけでなく、優秀なデザイナーや学識経験者に加え、市民などが参加し、デザインを検討し、合意形成している事例がみられる。これらは、多様な主体の相互作用やそれらを方向付ける仕組みによるプロセスであり、ガバナンスの観点から捉えられる。

そこで、本論文においては、行政担当と建設コンサルタントだけでなく、住民、専門家、市民団体等の関係者が参加することが多く、他事業との複合や、土木、建築、造園等の分野がみられる駅前広場整備のうち、主にデザイン賞等を受賞し質が高いと評価されている事例を対象として、ガバナンスの観点から社会基盤デザインの質を高めるメカニズムを明らかにすることを目的とした。

分析手法としては、デザインのプロセスを整理し、質の高いデザインの実現に当たって重要なプロセスを検討プロセスとして抽出したうえで、それぞれの検討プロセスにおいてアクターと行動に対し影響を与えた要因と関与者群で構成される実現構造、それに影響を与える事業特性及びアウトプ

ットとしての質の高いデザインとの関係を示した枠組みを提案した。ここで、アクターと行動に影響を与える要因は、事業主体が質の高いデザインを生み出すためにコントロール可能なツールとしてガバナンスツールと呼ぶこととし、事業を推進するためのツールとデザインを判断するための評価ツールを、明文化された公式ツールと慣習や規範などによる非公式ツールに分類した。

ガバナンスの観点から見た事例分析の結果、一般的な事例に比較して質の高いデザインの事例は検討プロセスが多く、内容に応じてアクターの役割と種類及び用いられるガバナンスツールが多様である。優秀なデザイナーを指名して目指すデザインを立案し、さらにブラッシュアップするために学識経験者の助言や委員会の設置、試作検証や現場監理業務の発注など調達方式（公式事業推進ツール）が用いられる。さらに、製品試作や現場調整を行うことから、メーカーや施工者の協力を得る組織文化等（非公式事業推進ツール）が用いられる。また、デザイン評価では、学識経験者や市民参加など（非公式デザイン評価ツール）が用いられていることが明らかとなった。

また、事例分析結果を踏まえ、質の高いデザインを実現するための課題を乗り越えるアクターとその役割及びガバナンスツールの組み合わせによるメカニズムを以下の通り明らかにした。

調和を目指す全体デザインでは、都市構造との関係が課題であり、それを乗り越えるために、都市計画コンサルタント等を指名する調達方式（公式事業推進ツール）を用い、関係機関と調整・合意形成ができる委員会を調整会議等（非公式事業推進ツール）を設置し、学識者等の助言（非公式デザイン評価ツール）によりその妥当性を判断するプロセスがみられる。統合性を目指す全体デザインでは、地域らしさを抽出しモチーフとしたデザインへの反映が課題であり、それを乗り越えるために、ノウハウのある優秀なデザイナーを調達方式（公式事業推進ツール）で選定し、その妥当性を判断する委員会等を調整会議（非公式事業推進ツール）として設置することがみられる。一体性を目指す全体デザインでは、主に行政内や関係機関との共通するデザイン要素を統合の調整と決定した統一的内容を実施設計図や仕様書として工事発注時に統一することが課題であり、それを乗り越えるために、関係機関と調整・合意形成ができる調整会議等（非公式事業推進ツール）を設置することがみられる。

また、各施設のデザインでは、景観性を重視したオリジナルデザインの質の実現のためには、標準仕様や既製品などの採用といった行政規範が課題であり、それを乗り越えるために、優れたデザイナーへの委託やその妥当性を評価する学識経験者を含む委員会等の設置、及びオリジナルデザインを図面化するための法令基準に則った仕様書に記載した設計計算や現場監理・デザイン監修業務（公式事業推進ツール）やメーカーの協力等原寸模型や現場での社会実験によりその品質や利用性を検証（非公式デザイン評価ツール）することがみられる。緑地等デザインでは、維持管理が課題であり、それを乗り越えるために市民参加（非公式デザイン評価ツール）による維持管理方法の確立が重要である。また地域の気候風土に根差したデザインとするために在来種の採用等が課題であり、それを乗り越えるために専門家の助言（非公式デザイン評価ツール）を受ける樹木を生産地で確認するといった現場監理（公式事業推進ツール）がみられる。

さらに、質の高いデザインを実現するメカニズムを有効に機能させるために、多様なアクターの相互作用を促進させる学識経験者やコーディネーターを配置した体制構築のための調達方式（公式な事業推進ツール）は事業の早い段階から現場まで一貫して用いること、デザイナーの選定を行った学識経験者は引き続きデザインの妥当性を評価しより質の高いデザインへと導く助言機能を発揮する仕様書等（非公式デザイン評価ツール）のガバナンスツールの有効な使い方の例を示した。

本論文では、質の高いデザインを実現するための課題とそれを乗り越えるためのガバナンスツールを用いた課題解決のメカニズムを明らかにすることができた。実際に事業を進める行政担当にとっては、このメカニズムを理解し、ガバナンスツールを有効に用いることで、目指すデザインの質の実現に役立つものと考え。また、建設コンサルタント等が行政のパートナーとして事業の組み立てや推進を支援する際のコンサルティングにも役立つものと考え。

最後に、今後の課題として、比較事例を増やして本論文で得られたメカニズムの一般化を図るとともに、課題解決のためのガバナンスツールの改良や開発、事業特性そのものを変えることによって乗り越えるべき課題のハードルを低くするなど、制度や体制、仕組みの改善の研究が必要である。さらに、アクターの質の向上、人材育成も今後の課題であると考えられる。